

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 2 月 6 日

事業所名 しあわせ駅山内

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		部屋数が多い為、児童の状況に合わせて居場所を分ける事ができている。	
	2	職員の配置数は適切である	3	2		配置基準は満たしているが、職員の急な休み時に対応しやすい人数を確保する必要がある。今後、工夫を重ね、改善していきたい。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	1	バリアフリーに関しては、あえて段差に注意を促すようにしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5		全職員でできる限り掃除を行い、清潔で過ごしやすい環境になるよう努めている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5		朝礼やミーティングにて連携を図り、業務の改善に努めている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		保護者の意見を取り入れ業務改善の努力をしている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		事業所ホームページに掲載している。頂いた意見を職員ミーティングで共有し、業務改善につなげるよう努めている。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		5		現在実施できていないが、今後、導入を検討中。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		社内研修に参加し、研修内容を職員で共有、勉強している。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5		本人や保護者の思いを踏まえながら、お子さまの成長に繋がるよう職員間で観察し、支援計画を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5		個々に合わせたアセスメントツールを使用している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5		個々に合わせたアセスメントツールを使用しているが、今後も随時見直しを図っていきたい。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5		職員間で児童1人1人の計画内容を周知し、計画に沿った支援を行うよう心掛けている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5		全職員で意見を出し合い、プログラム立案している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		季節に合わせた内容や、平日と土・祝とでメリハリをつけたプログラムを行うよう工夫している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5		子どもたちの発達段階に合わせ、定期的に活動内容を発展させ、工夫するよう努めている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		朝礼にて、当日の支援内容や役割分担等の確認を行い、午後出勤の職員には随時共有している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		朝の時間や記録を書く時間等に工夫して時間を確保し共有している。申し送り用紙も活用している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		記録を書く際に、支援計画と照らし合わせて記入している。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5		定期的に保護者・職員・児童発達支援管理責任者で話し合いを行い、児童発達支援計画の見直しを行っている。		
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	2		児童発達支援管理責任者が参加するよう努めており、その他児童と関わりの深い職員も参加するようになっている。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		5		コロナ以来参加できていないが今後、導入検討中。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		5		現在、対象児童はいないが、必要に応じて対応していきたい。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		5		現在、対象児童はいないが、必要に応じて対応していきたい。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	1	定期モニタリング時に、連携を強化するため、他機関担当者に参加を依頼し、情報共有と相互理解に努めている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
携関係機関や保護者との連携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	1	定期モニタリング時に、連携を強化するため、他機関担当者に参加を依頼し、情報共有と相互理解に努めている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5		コロナ禍以来、ほとんど研修等の機会がなかったが、今後はぜひ参加できるよう研修体制を整えていきたい。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	4		コロナ禍以来、交流の機会がもてませんでしたが、落ち着いたら、体制を整えて、活動プログラムに組み込んでいきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		5		協議会への参加機会がなかった為、不参加だが、ぜひ参加していきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		自宅への送迎や保護者の事業所お迎え時に、出来る限り児童の様子等を話す機会を設けて、共通理解を得て、家庭と連携出来るよう努めている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		5		「ペアレントトレーニング」に限定すると、まだ実施できていないが、保護者支援の観点から、ペアトレも含めて、将来的には何らかの親支援を実施する方向で検討していきたい。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		契約時に書面と口頭で説明を行っている。契約時以降に説明を求められる場合には随時対応する。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5		「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容について、きちんと説明を行った後、保護者からその同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		保護者からの相談に定期的にはないが、随時対応している。ご家庭での様子もお聞きできるような保護者とのコミュニケーションを大事にしていきたい。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		5		コロナ禍以来、父母会・保護者会等を見送っていたが、親子交流会の開催等を検討していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5		ご相談や申し入れに対し、迅速・適切な対応を心がけている。今後も必要に応じ話し合う時間を設け、真摯に対応できるよう努めていきたい。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		毎月1回、児童の写真中心の便りを発行し、日頃の様子や共有したいことをお知らせしている。連絡体制等については、今後はSNSを利用し、素早い周知対応ができるよう努めていきたい。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5		保存書類は窓から見えないよう、保護シートや施錠での管理を行っている。外部へ情報漏洩しないよう細心の注意を図っている。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5		特性を考慮しながら本人が理解しやすい言葉を用いたり、写真やイラストを添えて説明を行うよう心掛けている。	
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		5		コロナ禍以来、開催できていなかったが、今後開催検討していきたい。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5		各マニュアルは職員に周知し、資料も保管し、常時閲覧可能としている。今後は保護者への周知にも力を入れていきたい。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		定期的に行っている既定の避難訓練に加え、必要な防災・防犯訓練を行い、取り組んでいきたい。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5		契約時に確認している。保護者からの相談があれば、都度確認及び職員間の情報共有もしている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5		保護者の申し出により注意している	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		ヒヤリハット事例集は職員に周知、資料も保管、常時閲覧可能としている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		社内研修にて定期的に行っている。事業所内にもポスター等を掲示し、職員間で意識するよう努めている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5			現在、対家児童無し。身体拘束に関する注意事項等はマニュアル化している。今後、身体拘束を必要とする児童が利用になった場合は、作成したマニュアルに基づいて行うことを全職員に周知徹底し、個別支援計画に記載を行う

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。